

学生専門分部会

農林水産省主催による「学生専門部会」が開催されました。

農林水産省において※『「農山漁村」経済・生活環境創成プラットフォーム学生専門部会』が開催されました。

参加者は当協会と連携（「農業農村を応援する大学生サークルネット」）に加盟している10大学（北里大学、千葉大学、明治大学、東京大学、静岡大学、信州大学、名城大学、神戸大学、山口大学、琉球大学）と龍谷大学のサークルの代表、農林水産省、当協会等。また、一般傍聴者（行政機関、地域おこし団体、大学生等）は60名（会場20名、オンライン40名）。

会議は農林水産省の農村政策部長の挨拶、農村活性化推進室長の学生専門部会の設置背景、目的の説明後、明治大学「楽農4Hクラブ」、神戸大学「地域おこしサークル水芭蕉」、東京大学「東大むら塾」の各代表からサークル活動の紹介がありました。

引き続きテーマ①学生が農山漁村の関係人口創出に参入・関与する理由とそのメリット②学生の取組が一過性のものではなく、継続的な取組としての仕組みづくりについて議論が行われました。議論ための話題提供として当協会の「大学生サークルと農村マッチング事業」について紹介しました。

最後に農産局長から「GREEN×EXPO2027YOKOHAMA JAPAN」の企画、運営への大学生の参画の依頼がありました。会議の様子は日本テレビで全国放送、農林水産省のHPでも紹介。当協会の「大学生サークルと農村マッチング事業」が、農林水産省の施策づくりのモデルとなっており、中里良一理事長がアドバイザーとして参画しています。



※『「農山漁村」経済・生活環境創成プラットフォーム学生専門部会』（農林水産省）

【施策の背景】

地方創成を進めるにあたり、若者・女性にも選ばれる地方をつくることが重要。農山漁村における若者の「定着」の増加には、地方創成・課題解決に問題意識のある学生に農業・農村面に目を向けてもらうことが有効。

【施策の方向】

学生による取組の推進のためには、i 学生活動の継続性地域とのマッチング手段、人的・財政的リソースの確保等の確保、ii 学生と中間組織等との連携についてもモデル化 等

【施策の目的】

学生専門部会では、学生に農業・農村面に目を向けてもらい、より多くの学生の参入を促進するために、以下の点をまとめることを目的とする。

i 学生による農山漁村への貢献方法の類型化、及び（学生にとっての）メリットの整理

ii 多様なステークホルダー（企業及び自治体、中間支援組織）による学生の活動支援を促進するための、支援メリットの整理

iii 学生の活動をより継続可能、かつ効果的なものにするために必要な支援策の整理



大学生からのメッセージ

「さわやかハンバーグから学ぶ行政」

静岡大学 人文社会科学部 3年 杉山友美

「さわやかハンバーグ」。それは、静岡に観光に来る人びとが、口を揃えて食べたいという魔性のご当地グルメ。生糀の静岡育ちである私でさえ、20歳の誕生日に初飲酒の誘惑に打ち勝ち、食べに行ってしまう、それが「さわやかハンバーグ」である。今回は、そんな静岡のご当地グルメに関連したとあるできごとをお話したい。

私は県外から来た人達の「さわやかのハンバーグが食べたい！」という願望を叶えるべく、静岡駅最寄りのさわやかへ案内をすることが度々ある。その度に、なぜ地下道でさわやかが含まれている商業施設まで行くことができないのか、ささやかな疑問が湧き起っていた。静岡観光をしにきた人のためにも、私のようなさわやか案内人のためにも、地下道で繋いだ方が楽になっていい。何も知らなかつた私は、ただ純粋にそう思っていた。

なぜ静岡市がそのような取り組みを行わないのか、その原因について調べてみたところ、落盤等の危険性、川の伏流水の問題などの理由が考えられた。なかでも、とある理由が私を驚かせた。それは、「静岡駅からの地下道を作ってしまうと、皆それまで通っていた道を使わなくなるため、道中にあった商店へ影響ができる。地上の賑わい、商店を守るために作らない」ということである。

そんなこと当たり前。そう思う人もいるだろう。しかし、その頃、大学で行政学の講義を受講していた私は、行政について学んでいたにも関わらず、自分の無知を、いざ静岡市の行政（地下道直通にした方が移動が楽になるのに、なっていない状況）を実際に認識したときに、「変えるべき理由」ばかり考えて、「なぜ今変えられていないのか、変えることによる他者への影響はないのか」という観点から見れていなかつたことを恥じた。

地下道を作らないということは、作ることによって今までに機能している生活が脅かされるリスクの削減、さらには、街の賑わいを守るという役割をしていた。新たな取り組みを行うことは行政として当然のことであり、こうした取り組みは市民からも注目されやすい。私もそういった記事に心惹かれる。しかし私たちが当たり前のように歩く道、過ごす生活のなかで、あえて「やらない」取り組みがなされていることも地方行政の大切な取り組みの一つなのだと認識した。

さわやかは私に、「やらない」理由の大切さ、偏った方面でしか物事を見れないことの恐ろしさを知り、こうしたことにも意識が行き届けられる人になりたいと強く感じるきっかけを与えてくれた。決して回し者ではないが、やはりさわやかは偉大である。

この珍事をきっかけに、私は散歩をよくするようになった。静岡だけでなく、旅先で途中下車したり、街を歩くときにあたかもあたりまえのように目に入ってくる情報に対して、興味・関心を持てるようになったのである。そして最後に、この記事を最後まで読んでくださった方は、静岡駅に降り立った際には、ぜひ地下道を使わずに、さわやかに足を運んでみてほしい。静岡の風土をさわやかとともにご賞味あれ。以上、お目通しいただきありがとうございました。

行こうよ！水土里の旅！

■ 西天竜幹線用水路円筒分水工群 (長野県伊那市、辰野町、箕輪町、南箕輪村)

西天竜幹線用水路は、長野県辰野町から箕輪町、南箕輪村、伊那市にかけて広がる、天竜川西側の水田地帯を潤す農業水利施設です。大正8年(1919年)から昭和14年(1939年)にかけて、総延長26kmの幹線用水路を建設する工事と、1,300haの田畠を開拓する大規模な耕地整理事業が行われました。その結果、地域一帯は穀倉地帯へと変貌を遂げ、戦中・戦後の食糧難の時代も乗り越えることができました。

円筒分水工は、この西天竜幹線用水路から水を公平に分配するために設けられた分水施設で、水田の面積に応じて仕切りや穴の数を調整することにより、適正な水の供給が可能となっています。現在も35基の円筒分水工が使用されており、大小の分水を含めると、83基にのぼるとされています。

平成18年(2006年)には、土木学会選奨土木遺産に認定されました。



西天竜幹線用水路



円筒分水工

■ みはらしファーム(長野県伊那市)

西天竜幹線用水路が通る伊那市にある「はびろ農業公園みはらしファーム」は、いちご、アスパラガス、ブルーベリー、りんごなど、四季を通じて旬の味覚狩りが楽しめる観光農園です。

園内には天然温泉やJA上伊那の直売所などの施設があり、「ダチョウ牧場」ではダチョウを間近に観察でき、餌やり体験も楽しめます。

分水工を見た後に足を運んでみては？



ダチョウ牧場

農業土木技術一プロの仕事

農業土木に関連する企業・団体が日々の業務で取り組んでいる技術情報を紹介する「農業土木技術一プロの仕事」。今回はポンプ設備機能診断検証の事例を紹介します。

1. 業務概要

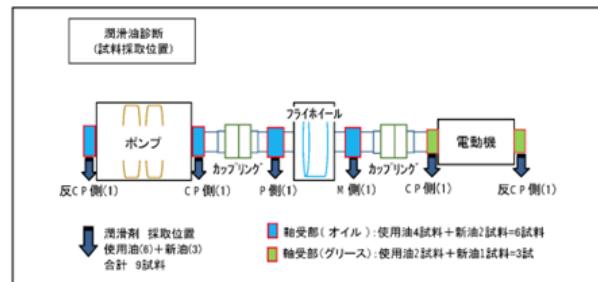
本業務は、国営大和高原北部土地改良事業により設置した上津揚水機場のポンプ設備について、非分解による診断技術の検証及び分解調査との比較による評価を行った業務であります。

【主要業務】①潤滑油診断、②振動診断、③分解調査、④分解調査との比較評価、⑤診断技術の検証及び評価

2. 調査状況

【潤滑油診断状況】

ポンプ設備の軸受部から潤滑油の採取を行う。

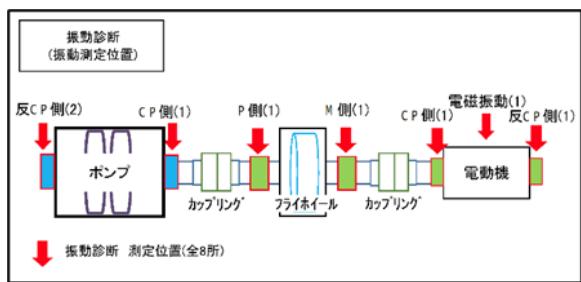


【分解診断状況】



【非分解振動診断状況】

ポンプ設備の軸受部において変位、振動速度、垂直加速度の振動測定を行う。



3. 業務の創意工夫

ポンプ設備の機能診断調査における非分解調査のうちの振動診断調査は、解析評価が調査会社ごとに異なることから、1者のみの調査結果を用いては有益な調査・比較検証とならないと判断し、自主的に診断調査の実績を有する2者に依頼し検証を行いました。

検討にあたり、振動変位、振動速度及び振動加速度の管理基準は、A社は3段階評価、B社は4段階評価であったことから、両者の診断結果の比較や分解調査結果との比較を行うためには、B社の評価区分をA社と同様の3段階の評価区分に補正するなどが必要となりました。このように、より良い業務成果となるよう創意工夫し、診断技術の検証及び評価を実施した結果、本業務は優良業務として表彰されました。

サークル活動紹介

「新大むらづくり応援隊 活動紹介」

新潟大学農学部2年 佐藤柚花

私たち新大むらづくり応援隊は、新潟県の棚田保全や地域おこし活動を応援することを目的としたサークルです。名称変更前の「むらづくり研究会」として2024年度から活動が再始動し、2025年度には名称変更とともに他学部生の受け入れを開始しました。(前体制時は始動したてということで農学部生のみ受け入れていました。)他学部生や車の運転に慣れている人含め、今後さらに多様なメンバーを確保したいと考えています。

活動頻度は、時期にもよりますが月に1回程度新潟県内の棚田地域(十日町市や長岡市、柏崎市、糸魚川市など)に行き、農作業を行っています。主に新潟県庁農地部主催のプロジェクトである「棚田みらい応援団」や、十日町市のNPO法人地域おこし様と活動しています。時期に合わせて田植えや稻刈り、圃場整備などを行っています。「棚田みらい応援団」には私たち学生だけでなく、社会人の方も毎回参加されているため、幅広い方々と意見交換することができます。

写真は今年度おこなった山菜採り(左)、田植え(中央)、草刈り(右上)、稻刈り(右下)です。時系列に並んでいます。山菜採りのように、稻作に直接関係のあること以外でも現地に赴き、交流します。四季を感じながら活動しています！棚田みらい応援団の活動の際は毎回、横断幕とノボリを持って集合写真を撮っています(右下)。



【棚田保全情報】

先月号でお知らせしました三重県庁の棚田保全のためのクラウドファンディングの募集期間が12月29日までに延長されました。

農業農村を応援する大学生サークル」の活動状況(Instagram)

□日本グラウンドワーク協会公式Instagramにアップしています。

<https://www.instagram.com/groundworkassociationjp/>

[発行・お問合せ先等] 一般財団法人日本グラウンドワーク協会 中里

Tel:03-6459-0324 Mail:nakazato@groundwork.or.jp

グラウンドワークとは「協働で地域をよりよくする」という意味です。当協会は、「中間支援団体」として①地域活性化、②環境保全、③福祉、④棚田保全等社会的課題解決を目的に、若者(大学生等)参加及び男女共同参画による協働を主軸にした、いわゆる「日本型グラウンドワーク」を推進しています。